



奈羅乃都万傳  
一

ホ 2  
4304  
2



ホ2  
4304  
2

猶乃孀手上

○安

あ 音ニづつをさる辞。古中音孀者耶。同阿賀美耶古逆。方五あれ念。同土あを

りあも何一わ あぎ 音思の思語を人そき。子孫。あご 音子。日神或阿

りぬよりへし あがせ 音兄。又あがせとも。友をも夫をも見をもさ。マリの辞。日仁位

んけあこそ。はん 持臣之妹か山。らりはくさのさ。このまをん。わをさ。わをさ。

わらわさよあこ あがぬー 音えん。人をもあこ

あがぬー 音えん。人をもあこ

あがぬー 音えん。人をもあこ

あがぬー 音えん。人をもあこ

あがぬー 音えん。人をもあこ

あがぬー 音えん。人をもあこ

あがぬー 音えん。人をもあこ

あがぬー 音えん。人をもあこ

故  
先光清風氏  
大正十二年十月  
三十日  
先光華氏  
香贈

け

あ

秋息の声、ききしきにもかきしきにもいあかりぬれぬ息のうつろひ

八

あ

あなまきころし。日古 あやれ。古語拾遺古語之甚切なり。古

○方

あ

あやうくひらひら。源、きりふか。しんごの

何

あ

あなかは。源、本。俗あや

○古

あ

あやし。古拾 天暗。仙 可念。何

怪

あ

あやし。古中 阿、引、志、夜、胡、志、夜、此、者、胡、笑、考、也。日、神

あ

あ

あやし。後、紀、奇、異、波

う

あ

あやし。今、俗、あ、

こ

あ

あやし。和、寒、あ、い、い、世、間、言、ふ、閑、具、行、む、ん

女

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

推

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

ら

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

た

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

ぬ

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

足

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

た

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

と

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

ろ

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

こ

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

あ

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

あ

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

あ

あ

あやし。脚、を、な、り、日、神、代、

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

いな

莫足踏之。日え奉。かき貝よあーふまねる

あーよゆくな

足徒行。古中。於是小竹之

あこ 細子。方三。あこ。湘。あまのよむを

あき 生。日。林。代。神。聖。生。其。中。馬。後。他。此。子。の。あ。き。ま。こ。む。い。や

ありき ころ。ろ。主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

ありき ころ。ろ。未。ん。之。日。丹。心。黒。心。方。十

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

あろ ド。け。り。あり。あり。あり

あり 主。之。方。十。ち。き。き。り。あり。あり。あり。あり

怪行女婦土師の和遊女

うかれ女又阿る此

あ〜り

あ〜り 昔の昔の方三の山ありあ〜りる。後の

喜の目乃ひくりよあ

あたかも

恰之顔會云道苗之謂。方九

あ〜り

よ

新代又新夜之。方一あやきもわら〜。同十二あ〜り夜の〜もわら〜

あ〜

ら

惜之。日林代 雜田之所。理備若地矣。多良形也。汗音。同 権畧。あ〜りしき

あ〜

他之。方十一あ〜り枕

あ〜り

花梅之。方十三人ハあ〜りこのス。

の

あちきなく

日 無狀 无端 無道。女無為。人乃んを五味〜。こ〜りあ〜り

〇方十一

あちきなくあひ足らめてもわれ〜。古今や〜

あつこ

厚子之。方六

こあつこ。その〜。厚子。重なる〜。後紀十九 芝居

あ〜り

詔之。説文相呼。誘之。方十六有二壯共。詔此

娘而指生格。競。古今ハ凡。あ

あともひ

誘之。方ニ。中軍を

あにもあら

出豈不在之。何も他。あ〜り

あち。ほまにして

不遇而〜。まハ。あ〜り

〇方十六 あち。あち。あち。あち。

あち。ひのかひ。乃か。おとひ

鯉の貝ハ。あ〜り

〇方十一 あち。あち。あち。あち。

あひ。うづ。あひ

相現形之。方十六。神あひ。うづ

〇方十一 あち。あち。あち。あち。

あち。り。ほ。ん

火燵于之。方九。あち。り。ほ。ん。あち

〇方十三 山と海。ころ。山。の。ま。あ。か。く。も。現

あち。ら。ひ

き。や。も。ぬ。れ。き。ぬ。を。あ。ち。り。ほ。ん。あち

旅の志

あふらひ

沖火之。又。焼火。も。方六。あち。ら。ひ。の。ひ。り。よ。ん。あち

あふぎ

仰之。方ニ。久。く。の。天

あへぬき

和貫之。和。壺。あ。不。又。あ。信。毛。乃。持。薑。蒜。醋。和。之。也

あへ

あへ

耐之。説文。耐。進。取。之。又。思。為。之。方三。教。後。の。月。子。き。う。ひ。あ。へ。む。う。も。同



アて

在在而也。万四ありさうて  
今うらふんとも思ふまに

あまうるものにあれや

在得物有  
哉。万五志

ましくもいふりあや  
うるものにあれや

あひこしめとぞ

令相見。万三妹をめ  
かれをねしめとぞ

あうか

暖。万三つぐのわかいま  
いハきぬとあふかにんや

あはしら志ぬき

天所知在。万三あせ  
らしぬれこいまらひ

ひつちをけくとせむまも  
魂の天へゆりこふをまけ

あさむかば

不欺。万五あさむかばた  
よおけきてあまちしらめ

同。ぬりのむらと  
にあさむかれけ

あろ

浅。万四あろ  
にわかつれれとも

ありこそぬかも

有社不  
勝。万六

まとせいほとせ  
るこそぬかも

あむさむ

令ぬ浴。万十六  
くらきつにあむさむ

あまのさうて

天逆  
もこ

古。天逆も夫たを紫垣お成而隠也。伊  
かのをとこ天のさうてを折てむわつらひをり

あめつちにまろいしらぬ

まはらを

天地不。至大夫夫也。万十二。大丈夫  
らうく天地をとりぬく。のわれを

あうぼし

太白星  
このは出る

ときハ夜のゆるあまなへる。万五ありけのあるあ  
和歳星一名明星。此間。加ほ之。よへは出るをゆつとよ

あかとき

曉。万十  
旭時。同

八。五更。同。鶏鳴。同。曉月。二。在。ぬ。月。ち。へ  
同。土。少。月。夜。あ。う。と。き。や。こ。夕。月。に。曉。月。を。き。を。り

ありと

令明而。万十。あ  
ていけハ母ハあとも

表をぬ  
ていけ

あけと

明。闇。夜。の。め。を。む。て。き。り。と。ら。く  
なるをり。万四。ぬ。れ。の。約。き。り。こ。り。や

あさと

わら

日。崇。神。う。ま。さ。け。三。つ。の。ぬ。の。お。に  
も。万。十。お。え。出。入。り。あ。う。う。ひ。を

あさごち

朝。東。風。万。十。お。ち  
に。あ。て。る。を。り

あさし

潮。万。十。お。は。い。り。ぬ  
し。ほ。こ。ち。よ。の。こ。つ。こ

あさにけ

朝。毎。日。万。三。お。山。の  
三。孫。の。き。や。お。に。け

あさよ

朝。月  
万

大。の。つ。子。の。あ。さ。よ  
ひ。に。あ。ら。う。あ。ま。も

あさいら

朝。こ。の。女。さ。ら。ん。と。も。万。三  
あ。さ。ら。ん。を。り

あさひがけ

ほへ山

山。の。さ。の。勢。を。さ。る。を。り  
山。の。さ。の。勢。を。さ。る。を。り

あくるあした

明。朝。万。十。あ。く。あ。した  
あ。く。あ。ま。に。て。い。ま。る。を。り

あけがあくとも

明。朝。ぬ。め  
万。十。同。土

あきつけ

秋。の。廣。野。を。ぬ。つ。く。夕。つ。く  
家。つ。く。日。一。ち。の。万。八。杖

つけハ尾をたうりしよきや海の。同九  
つく秋のまきくをうしよきハ在ぬ月をよ

あつけき

執つけきハきの廻きく遠きとを  
けきとしよきく。方九あつけ

きにあせり  
あまぢ

あまぢ

天路。方五久。あまぢハとほり。あま  
あまぢハ家にかりて業をまきまよ

あまぢのた

いたまふ

方十五天をのといひたひやまきんるハ  
われをまのめりまていとさ

あまぐものむらふんきハ

て

天雲之向伏極。祝天雲能向伏限谷候終液極  
方三天をの向伏。同マモのろきへりきま

あまぐもにも福う

ちつけてこぶたつの

方十。古今やにち福うちかろ。飛かりのかんさへん  
ゆる杖の夜乃月。千中にて福あつて飛とつるん

とほちるかも  
あまろく

あまろく

天進。ぬりくろひへるをり。方十七天  
せ乃子へをわ。わけ天ろくまきま

あまのた

あまよ

天之足夜。もき夜をり。方十三あまの  
いりよに。同ニいのちハふく天足有

あまろり

雨晴。方十一雨ちり  
のそまたらひては

あまよ

雨夜。同  
方十六

あまつこ

雨ふさへらる。をりあまつこも  
方四雨つこつ福もるに者。つこ

あまよもたうぶ

あまよもたうぶ

雨間ふき。方八ほとくきハあま  
まもたうぶこもまきま。雨の

あめつちのわはきごご

あめつちのわはきごご

方六天地のをきごご。同く  
日月のなうきごご

あめつちのわはきごご

方二天地と共。将終と出  
わつちへまつり。いんとういぬ

あめつちのわはきごご

あめのかせ

あめのかせ

方七越俗借東風謂之あめ乃可是  
催こちのちたけふのこうふあハ

あらし

嵐也。和山下出風嵐  
方十あらし。あらしハ

あらし

あらし

あらし

あらし

あらし

あらし

あらし

あらし

あらし

あらし

あらし

あらし

あらし



○万三 天竺の神をうつり  
祈いしともまへん

あらひとかえ

○日景行 吾是現人神之子也。○万六 位在の  
荒人神の船のへふうーもきたまひ。後後

十九 現人神と成とまひ。和現人神。袖あまくるる荒人神のあひおひをねりへひきうー位在  
乃神。後河北也よよせよるわひひつやうきえをいっほうりきとあり人神もありむ

あがし

あさねぎ  
船潮のわし。○万七 船を  
きよまよるる浪こま

あさびらき  
○万七 船をに  
出まよらうー

あさねぎ  
船は船こき出さるる。○万三 世のけを  
そはたとへむ船ひらきこかに一毎の

あさねぎ  
○万七 船をに  
出まよらうー

あさねぎ  
浅小竹束し。○日景行 あさねぎ系  
こーちつむ。○万十 神あはのあさ小

あさねぎ  
○万七 船をに  
出まよらうー

あさねぎ  
○日 神代 豊  
葦束千五

あさねぎ  
○万七 船をに  
出まよらうー

あさねぎ  
葦を裁し。○万七  
るし。○万七 ちんた

あさねぎ  
○万七 船をに  
出まよらうー

あさねぎ  
○万七 船をに  
出まよらうー

あげ  
○日 神代 兄作 田老 汝可作 漆田  
○万三 船をに  
出まよらうー

あざに  
○万三 船をに  
出まよらうー

あん  
○万七 船をに  
出まよらうー

あとおちりたち  
○日 神代 栗田 豆田 同 神代  
ありあに。かえ

あぶ  
○万七 船をに  
出まよらうー

あたら  
○万七 船をに  
出まよらうー

あを  
○万七 船をに  
出まよらうー

あから  
○万七 船をに  
出まよらうー

あらう  
○万七 船をに  
出まよらうー

あから  
○万七 船をに  
出まよらうー

あを  
○万七 船をに  
出まよらうー

あから  
○万七 船をに  
出まよらうー

あを  
○万七 船をに  
出まよらうー

あから  
○万七 船をに  
出まよらうー

あを  
○万七 船をに  
出まよらうー

あから  
○万七 船をに  
出まよらうー

あを  
○万七 船をに  
出まよらうー

あから  
○万七 船をに  
出まよらうー

あかも 紅堂入。方六をとり  
ありらるをぶね 丹塗の舟。方十六。同三  
山下のあけりうは舟

あぐかち 赤酸醬。日神代  
ありごま 赤酸醬。日神代  
ありごま 赤酸醬。日神代

あがる 揚。方サあさなさなあ  
あさとり 軟鳥。方サ  
あさとり 軟鳥。方サ

あさぐら 軟鳥。方三  
あさる 軟鳥。方三  
あさる 軟鳥。方三

あいかも 葦のほりの鴨。又鴨。方十  
あし 鴨。方十  
あし 鴨。方十

あきほ 小鳥。俗。あいきとり。方七  
あぢむら 小鳥。俗。あいきとり。方七  
あぢむら 小鳥。俗。あいきとり。方七

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あをらま 者。方サ。四月七日。信  
あをらま 者。方サ。四月七日。信  
あをらま 者。方サ。四月七日。信

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき  
あむ 蛇。日雅畧。ふらふらあむきつき

あぢきお 和紫陽花あま  
杖わ六尺ひらふ

あへたちぢぬ 和橙あほたあ波ふ  
似枕而小若くと花枕

あふひ ○万十六  
葵花後

あやめ 菖蒲草○万十  
あやめあかつらふせ  
む日こぢちきりしれ。後紀天平十九

あをな まませく。古中  
まを煮とて本。和蕪菁  
あやふ

あせ あせりかりるをい  
ふ。万三久々のあせ  
翠衿

あせり あせり

あさ あさ

あさゆきま 麻被  
○万五

あきつえ 秋は葉乃紅なり  
きり衣をつたえ

あらがめ 退れぬ。江次大臣  
家大倉之次才云は二人著  
○古拾織布

ありきぬ 明衣○古下  
ありきぬの三色  
のみうさくかせる。万四  
ありきぬ

あをき あをき

あふも 古下其臣服著紅紐  
昔指衣故水潦拂紅紐。○  
尋山あふ

あつもの 美之熱おのふちをへし。  
○万十六ひれにや  
んせうふ葱乃者あ。楚辞  
渚有葳菜

あいら あいら

あいら あいら

あいら あいら

あいら あいら

あいら あいら

あいら あいら

あつせ

裕之。方士つるまの  
あつせ夜のうらまへ

あふぎ

扇之。方九あまきえ  
あふぎ山はむむ人

あぶこ

鐘之。和語  
あぶこ語也

あーわけをぶ祿  
○方士草舟

あーわけをぶ祿  
○方士草舟

あーからを

あーからを

ぶ祿

足輕舟之。古下免す海之西有る樹其樹之氣節旦日先速波路あふま日先  
祿言あ山故切是樹以依船其捷行之船之時号も船謂枯地也。方士百し

あこひなきおら

あこひなきおら

無價宝之。方三あこひなき  
おらといふも二しきのにえん

あいにさ

あいにさ

○方三久々のあま月を網ふさしつら大まなきぬ  
かさよせり。若方若夜あいにさりめ若夜ちらハ

あこめ

あこめ

あたいらまひこ

あたいらまひこ

あつせの地名とあつせとりのそら

505

伊

發語之。方一いつらつて。同三いつきぢり  
伊。同七いつきぢりいつらつておほ

伊

群のりたれく助群之。日 徒  
伊。徒也。室全 仲麻呂伊。徒後 同 葦乃全人

付健岑伊。方三 志非文伊。おほ

如何之。古上沙身者如何成。方四あつせにたまはれ  
われをわきていつまむ。同土 伊有人うおわりのさら

む。又つてうとも。方二いつ

歳多之又いつらつても。方士いつらつてもあつせ  
而ゆも。同七いつらつてもあつせ

徒之。方一都をさつていつらつて

痛之又いつらつてもあつせ  
方士いつらつてもあつせ

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いつらつて

いにへの子

古風。日垂仁

いとまぢなく

無暇。方五

いとまぢなくあまのいりともいあ

ろくにほろ乃あーのいりなき

答。源きりつら

いか

嚴。日。嚴。中。り。と。ち。て。源。きり。つ。ら。

さけよ

い。發。漢。多。の。こ。

いたづく

日。旁。竭。古。今。さ。く。な。は。み。わ。り。つ。こ。の。あ。ち。き。を。は。こ。い。つ。ま。の。も。ま。ち。れ。て。

いなせ

不。口。諾。方。十。六。い。ち。も。せ。お。と。む。ま。に。ゆ。ら。へ。

い

不。知。方。十。大。上。の。こ。の。山。を。い。と。や。川。不。知。と。を。さ。こ。せ。お。名。の。ら。ん。か。

いりさまに

何。方。之。方。い。り。さ。ま。に。お。ほ。り。め。せ。う。

い

不。言。さ。く。の。ゆ。め。之。方。二。れ。へ。き。ち。う。さ。い。と。ま。く。に。

い

入。乱。之。方。一。つ。り。と。れ。夜。に。ほ。く。せ。と。い。の。ま。り。に。

い

方。二。將。言。め。便。せ。お。ま。へ。に。み。の。

い

這。伏。こ。い。か。あ。流。方。二。ち。へ。い。の。さ。い。ち。ち。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。

い

今。成。せ。之。方。三。さ。く。花。の。に。け。し。か。こ。と。く。い。ま。さ。う。り。あり。

い

抱。之。方。三。た。い。こ。い。こ。



○万七 西の市に  
たぐひり出て いそほくらしきとほむぎ ○万七 農まらむとほむぎ  
らそむとあまのほむぎ

いそかきふち ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそたてこかこちやま ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそり ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いほへ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそくら ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いへ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いほりも ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

いそ ○万七 西の市に  
ちりかきふち

麻自抄る自他男有字ねありこまにまよと

よつてまよ。方五いぢりそのたにありてや命をなむ

やつりとりよ。古上やつりきりいとはむをつりかけかなく

方三。家つりかけをなきさ乗いぬけ夜あけぬ入てかりねむ

方七。垣うに

犬よひこて

毛指無使

有せ吠

まよのを。古今よりに。こつれはる。入紐の甲よよいさむを

ひてむ。装束の首よひの紐に雌雄の名をうれを合て銚入を入紐とりよ

ころもいぢりぢらぢも。古今いとえやちなきぬる

かりうのまは乃とと。あもみあまあなくに

いたやくー

いづる

いぬまほえころ

いまひも

いととちそ

いろど

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる

いづる





神代 顯齋此云 園語怡破毘。万十まじらまのつーんもぶらうー

ひういをれこいーやわれ。同いっつーちよかど。源 万十まじら

題地。万十まじらくーえまのほーきまら也

らかも。土つつりー神のまきーをんー

みりあふちまるとのつーほはに。祝皇孫金神ままのり幣

布。神代 伊弉諾言曰 昔欲世持之珍子珍此云于國

花はまけしちまもまもつー味うまーままここぬ。同まひ

あつわかき子まねきうまも。万十まじらまのそ乃らゆきーつー

疎。万十まじら

ふまきつもーむ

うぬかせる。万十まじらぬけるものま

まをりかへてまをまもむと乃ま

日天智一表之同格也而格其具

垂類而熟。万十まじらつらりりらか

うむいして 大集而之。万十まじらまのそを

うむひて笑る梅の花

うむいして

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〇後犯ふちまう入へる

ふかくにけひたりけ

一も。毛活 不属乎毛 不離乎裏。

つとひー引ーつとひー引ーつとひー引

くし。万十まじらつとたこのふも

伊弉諾のちまもつーきー

とちよく

肉。万十まじらあえつちのそ

こくく思にこあらむん。

二月三日日蓮ことしあきまの侍を天神祀

やふひ日るらるー

坊。万十まじら君にこい

なりくも。古今杖大きにうら

恨。万十まじらうらうら

まらるまて

はらるまて

うむ 〇万十まじらうむとき

にこひつるおも

かたき

うらもちよく

伊弉諾のちまもつー

とちよく

肉。万十まじらあえつち

こくく思にこあらむん。

二月三日日蓮ことしあきま

やふひ日るらるー

坊。万十まじら君にこい

なりくも。古今杖大きにうら

恨。万十まじらうらうら

まらるまて

はらるまて

うむいして 大集而之。万十まじらまのそを

うむひて笑る梅の花

うむいして

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜





















とららちひつるかも。同。六ひのつきかて。同。三。天まちのり。日。推古。三年。五月。月。人。不知。水。以。交。新。焼。れ。寛。一。文。聖。良。雜。若。古。今。の。ち。の。花。え。か。ら。に。く。人。ハ。ち。の。ち。の。後。ろ。か。ち。ら。ん。悲。こ。ら。ハ。助。之。方。日。の。か。ち。ら。に。わ。り。一。と。一。つ。か。の。こ。と。こ。ひ。か。つ。へ。き。ト。古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちき 愛。懐。を。り。用。を。体。を。用。たり。方。古。に。ほ。り。の。か。ち。ら。ち。を。る。ふ。ハ。は。と。の。の。か。ち。き。を。と。に。と。め。や。も。伊。ら。ら。に。さ。入。る。け。ま。い。と。か。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。

かちま 古。今。の。り。ら。に。ま。ら。な。き。ろ。り。の。ら。に。は。し。



かゝるて○方土衣かゝづらひ○源帚木

ことき○方土かき○文鞆堂かこ○水

初よりかにいりてふ。日鷹神天皇と津陵成君而遊獵之於是天皇西望之幾十鹿亦鹿

厚地亦之便入于播磨鹿子多門天皇留在大曰其何鹿鹿鹿也後巨海多中果對曰諸縣君

牛是年若君之雉致仕不得志朝故己女髪長媛而貢上美天皇悅之而喚令

從御和是心時人号其若岸之鹿曰鹿子水門也凡水手曰鹿子盖始起于是時也

ことひのうのかざ○頭刺か○方土か○大

かゝるてはの集ふる。きの大主人いとまあれや

さくらむてりあてとらうてとせよ自他たうてや

ともれか○賢人か○父か○母

きてカ○こき○ひと

之とせにちりぬか○かち○ちに○にや○や

見たるもて

かにん○有か○方か○方か○方

有燒之。日飛代 内披天善山之者男孫之肩按し。おほい藤子藤の肩背をき

かゝるてはの集ふる。きの大主人いとまあれや

さくらむてりあてとらうてとせよ自他たうてや

ともれ

きてカ○こき○ひと

弱有太子能るのけ。同業のほろたわやかいをまわむ

方三 いろはへをまをけむをまわぬきんれいせをまわぬま

河内女之の深乃ちし。方七かちたのてうものいとをまわぬま

日十四 大れ女のいさましくこにあをわららまな。式内飛鳥

付河内必依仲 唐織貯収案字其佳功表用

察高布千八百限支給足る三辰日満ち五人

預植叙 其首境株

ハ皆つたの祥なり

錯髪。方十六くわのえちりハあけつら

け。日之景 皇在耳之根日毒自結髪陪於後宮

るふちふ。方十九 かりんふふふふふふふふふふふふふふふふ

上巳春後北曲のまをわにこれちめちりし上上上上上上上上上上上上

三日とちれしも昔に准して上上上上上上上上上上上上上上上上

つとく極入りまわ

にもすま

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

かちめりてづめのいと

といわく大抵なることこの  
まじり乃かこしきらまむ **かこり**こつてさてらんまに  
乃てこちひくことにもいひまをさるる  
よにもかも。天宮より自宮をあらうまをさるる  
ちいやふる神のたとしていのちをも催うあつちやうくろりせむ。今うつせこの世人のこの  
ちいねのもし。神のたをちあまをさる。後撰きこつたのちのちとせもつきなへ  
これよりまをさる。  
神乃よもかぬ **かこり**こつてさてらんまに  
乃わのひもまぎれなきのまけまに。神の天宮を極まをさるるまきとあむ  
。後撰捨ちかりこつ神より極まひく板のいれいりままけまこひかぬ **かこり**  
こつちひ **かこり**こつてさてらんまに  
神相次集の。方十八天地の神あ  
こつちひ。日十やまのまにのこつちひ  
とめを神のこときこす。のこもたまらまう。方十二神のこときこす。のこも神のこときこす。のこも  
乃神のこ。今うさぬこのは。古今うさひいき井たのたよ。神のたよまけまとあむ  
まを  
**かこり**こつてさてらんまに  
神より。方七。けつたれ。こ  
ちきけ。こつちひ。こつちひ。こつちひ

**かこり**こつてさてらんまに  
神之はも用器也  
。下。わらわの  
神之持在  
今。方十

**かこり**こつてさてらんまに  
神之はも用器也  
。下。わらわの  
神之持在  
今。方十

**かこり**こつてさてらんまに  
神之はも用器也  
。下。わらわの  
神之持在  
今。方十

**かこり**こつてさてらんまに  
神之はも用器也  
。下。わらわの  
神之持在  
今。方十

かむ大 **かこり**こつてさてらんまに  
。日。孝。後。惟。神。注。言。惟。神。者。謂。神。也。  
亦。自。有。神。乃。こ。方。一。山。川。も。より。て

つある神あつたきつかか  
ちよあむまをさる **かこり**こつてさてらんまに  
神よ。方。二。神。あ  
かりありいまぬ **かこり**こつてさてらんまに  
神たは神  
ありをり

。方。つ。つ。大。君。の。神。を  
から神まをさる **かこり**こつてさてらんまに  
會。そ。風。神。之。式。祝。詞。神。は。風。神。也。風。神。を。ま  
か

**かこり**こつてさてらんまに  
風をさる。方。五。風。を。さ。る。方。の。よ。  
東。の。雨。も。り。雨。の。あ。も。あ。い  
か

**かこり**こつてさてらんまに  
風をさる。方。五。風。を。さ。る。方。の。よ。  
東。の。雨。も。り。雨。の。あ。も。あ。い  
か

**かこり**こつてさてらんまに  
風をさる。方。五。風。を。さ。る。方。の。よ。  
東。の。雨。も。り。雨。の。あ。も。あ。い  
か

**かこり**こつてさてらんまに  
風をさる。方。五。風。を。さ。る。方。の。よ。  
東。の。雨。も。り。雨。の。あ。も。あ。い  
か

**かこり**こつてさてらんまに  
風をさる。方。五。風。を。さ。る。方。の。よ。  
東。の。雨。も。り。雨。の。あ。も。あ。い  
か



かきつ乃たに  
かきつ乃たに

かぎぬむみち  
かぎぬむみち

かけさへるゆ  
かけさへるゆ

かぢぬりたて  
かぢぬりたて

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かたかたにあらふ  
かたかたにあらふ

かきつ乃たに

かぎぬむみち

かけさへるゆ

かぢぬりたて

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ

かたかたにあらふ



かぢやなぎ

か 楊の。和木楊か。葉赤ま。芽の赤を揚りしむらぎ。柏の。方九ま。

かへる

か 和鶏冠木。又倍天乃木。祥色立成三雞の樹。かは魚根乃木。かへるさ。

かへる

か 和鶏冠木。又倍天乃木。祥色立成三雞の樹。かは魚根乃木。かへるさ。

かほ

か 容花又顔花もわけ也。約白々白乃たしひ也。及ま構葺壁壁部心ま也。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

か 日神代也。かやもり乃つつ人めと勤おさせから。かはるさ。

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

ほろろハムーへてことむ  
かかしのまゆらふ  
か土たち福の母のふこのすぢ  
ことりつせくもさく娘あふ

まのまつちまきぬむと  
かへるうや  
帰るよ。方十九まきん  
かへるこのあせし  
か

雁之書。方十枝のりかかりたつもの  
かへるうや  
雁之使。方九んをさるを馬く  
い山ゆええとちかりのつうひハ

雁之書。方十枝のりかかりたつもの  
かへるうや  
雁之使。方九んをさるを馬く  
い山ゆええとちかりのつうひハ

雁之書。方十枝のりかかりたつもの  
かへるうや  
雁之使。方九んをさるを馬く  
い山ゆええとちかりのつうひハ

雁之書。方十枝のりかかりたつもの  
かへるうや  
雁之使。方九んをさるを馬く  
い山ゆええとちかりのつうひハ

雁之書。方十枝のりかかりたつもの  
かへるうや  
雁之使。方九んをさるを馬く  
い山ゆええとちかりのつうひハ

雁之書。方十枝のりかかりたつもの  
かへるうや  
雁之使。方九んをさるを馬く  
い山ゆええとちかりのつうひハ

かこのゆらひ  
肩の餅。方七新衣肩のまゆひたれりりむ  
かこのゆらひ  
和紙万葉不  
一とら流僧初懐也。向のまゆむ

遊記念。日雄畧  
かこのゆらひ  
あや歌れりむあきつーまやまこ。方十こひーるかこいもせまこわ

かこのゆらひ  
かこのゆらひ  
かこのゆらひ

かこのゆらひ  
かこのゆらひ  
かこのゆらひ

かこのゆらひ  
かこのゆらひ  
かこのゆらひ

かこのゆらひ  
かこのゆらひ  
かこのゆらひ

かこのゆらひ  
かこのゆらひ  
かこのゆらひ

かこのゆらひ  
かこのゆらひ  
かこのゆらひ

かこのゆらひ  
かこのゆらひ  
かこのゆらひ



なたもと  
にまうし  
洗又土具之。万おとし  
とよこふぐしとち

桔槔之。和桔槔 鉄索井之加ふ  
豆まゐ。ままに穢汲まかり

かたなぬぐし  
鏡之。和鏡  
かま布久之俵

○き

きこころ

令聞也。古上。のうろさうめをありとまうしてくりめをみ  
とまうして。日 意林 相慶之哉也。日 仁位 不令聞。万六 吾大君のま

たまひて

きこころ

聞者之。万九のぬとまうまけどまう  
。日 飛代 奸哉吾受る者等而けを

きこころ

軍不徳之。万九ほとまうゆるかりぬと  
まうゆるかりぬとまうゆるかりぬと

きこころ

。後記けの日のけのほりの  
ほまきれたらハちなる

あまこまうゆるかりぬと  
。万 天々のうまのまうし

きさば

あまのまのまうゆるかりぬと  
。万 柿のまのまうゆるかりぬと

きこころ

。式天雲向伏極谷懐狹依極

きこころ

。万 天のまのまうゆるかりぬと  
とまうゆるかりぬと

きこころ

競之。万十北田山まうゆるかりぬと  
。万 天のまのまうゆるかりぬと

きこころ

。日 仲哀 明心。万  
川ねとまう

まいらくし

。万 天のまのまうゆるかりぬと  
とまうゆるかりぬと

きこころ

。日 及正 齊風戒  
まうゆる

。日 權象

きかたけび

牙喫建怒之。万九きりたけ  
ひてとまうゆるかりぬと

きこころ

不まを  
在たり

。万 十こひけくけあまきまのまを  
へかまうゆるかりぬと

きこころ

。万 十入さひ  
とのり

。万 十カトをさうこあハ福や  
とまうゆるかりぬと

きこころ

。万 十清き  
其つる半

きこころ

ま

。万 十カトをさうこあハ福や  
とまうゆるかりぬと

きこころ

。万 十カトのハトをさうこあハ福や  
とまうゆるかりぬと

。万 十カトをさうこあハ福や  
とまうゆるかりぬと

きこころ

。日 飛代  
鷹の持領氏

。万 十カトをさうこあハ福や  
とまうゆるかりぬと

きこころ

。日 及正  
織工女

きこころ

。日 継体  
板 庚。和中宮

ましろひがり 藥獵之。方七廿七つとまきぬふりつりてらるるまきろひがり  
まの月八まきまけせ。日推古十九年五月廿日某獵於鬼田中。方六

うつきとまきまのほくよくま  
まのりつらあるとまきにとま  
ましろのよ 昨日夜之。方二  
まきろのよ 昨日夜之。方二  
まきろのよ 昨日夜之。方二

ののたけあも 情夕之。方五月より光をまきよと  
まきろのよ 昨日夜之。方二  
まきろのよ 昨日夜之。方二

まきらひ 西務合ともまきらふとも。まの務のまきりたけあ  
まきらひ 西務合ともまきらふとも。まの務のまきりたけあ

まのつらさ 岸のまの。山のつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ 岸のまの。山のつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ 紀之舞守く伊ハ助之。方四まのまきりつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ 紀之舞守く伊ハ助之。方四まのまきりつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ しまのつらさの昔ら確のつらさ。神紀伊の確のつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ しまのつらさの昔ら確のつらさ。神紀伊の確のつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ 山まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ 山まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ 水はあふ。方五。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ 水はあふ。方五。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ 心 勘之。日神。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ 心 勘之。日神。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ 木豆称。伊よわあけんまきつらまめあつらま  
まのつらさ 木豆称。伊よわあけんまきつらまめあつらま

まのつらさ かけのまのまきにまきてまなまをやりマ  
まのつらさ かけのまのまきにまきてまなまをやりマ

まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ  
まのつらさ まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ。まのつらさ

きろーとと。衣を  
きろーとと。衣を  
きろーとと。衣を  
きろーとと。衣を

きぬ 結二〇五五 ともなきぬららる人林向のそきこの比にきま  
きぬ 結二〇五五 ともなきぬららる人林向のそきこの比にきま

きぬ 結二〇五五 ともなきぬららる人林向のそきこの比にきま  
きぬ 結二〇五五 ともなきぬららる人林向のそきこの比にきま

きぬ 結二〇五五 ともなきぬららる人林向のそきこの比にきま  
きぬ 結二〇五五 ともなきぬららる人林向のそきこの比にきま

〇久

く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候  
く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候

く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候  
く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候

く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候  
く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候

く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候  
く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候

く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候  
く 本二〇方ハ波まふ 漏へ泳二〇日神代 自指回漏墮者。古よ 自我手候



ちんや  
つうせ  
く  
○日仁後  
なまこくま  
後醍醐の御所のまじつさるのちんや

源  
古井のころかかめ花  
く  
○方十九  
く  
可憐者不持  
岸の壊入の胸をうへ

○方五  
左人火旦天火曰火  
終及  
か  
○方五  
のり  
○方五  
く  
○方五  
く

○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く

○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く

○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く

む  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く

○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く

○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く

○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く

○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く

○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く

○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く  
○方五  
く



乃みち北陸 くらたぬびのこ日暮行 くにのさのひ國東

乃さうひに日暮 くにのちたてよ國の畫 くにのさのひ思邦

座下日顯宗 くへぶ垣越 くみのき細垣

絶しむ古上 くら倉 くら倉 くら倉 くら倉

修車久流 修車久流 修車久流 修車久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

乃みち北陸 くらたぬびのこ日暮行 くにのさのひ國東

乃さうひに日暮 くにのちたてよ國の畫 くにのさのひ思邦

座下日顯宗 くへぶ垣越 くみのき細垣

絶しむ古上 くら倉 くら倉 くら倉 くら倉

修車久流 修車久流 修車久流 修車久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

和友久流 和友久流 和友久流 和友久流

とめ カミ大さるのちねさへしめ 和細子よ久曾か豆良。方十六ふち なきにえひたほとれるとろつら くぬ

き 曆あし。方十五つとらひの大ぬのへのつらぬき 日まじり。曆本。和峯樹久留本 ききなぬ 日まじり。方十五つとらぬお 乃まむつむ花のさよひ

ら 方五 きたつくのをうのくくらわれつんと。字後 ちねさへ

とめ カミ大さるのちねさへしめ 桑菴野。方十五 中中に人あひんらりこもちらま。ぬを 不鳥。日十面くさむこまの口不

ら 島あをきぬあ らんへのころん 祢うへきぬ。よきるとよのを。後辨ひき眉のかくやこころり せまげし。ころんきき。れし。和禁錮。かえ比古 虫吐。あちり のねこな

し 日。茶 つらきこうきよひ。きよひのれこたひこよひき。も。古今。ま し。し。つひに。し。のをさかよのころもはく。とわれをたのむる。西。本。雜

ら 日。仁。後 式一領。伊波。波。字。好。妙。行。久。太。里 ら。ひ。つ。き。ご。ろ

も 頭著衣。方十五 ら。ひ。つ。け。う。ち。お。う。ら。は。は。九。あ。さ。き。ぬ。ま。あ。さ。き。ひ。つ。け ら。れ

ら 日。五。并 呈。機。僧。こ く。ろ。ま。さ。き。ろ。き 酒。白。酒。二。き。ハ。酒。の。あ。ち。こ。方。九。つ。ふ。す。ら む。ろ。ら。き。ま。ち。を。大。寺。會。お。き。金。子 雖。喫。こ。方。つ。め。ぬ。を く。へ。と。や。せ。に。や。れ は

ら 日。仁。後 式一領。伊波。波。字。好。妙。行。久。太。里 ら。ひ。つ。き。ご。ろ

も 頭著衣。方十五 ら。ひ。つ。け。う。ち。お。う。ら。は。は。九。あ。さ。き。ぬ。ま。あ。さ。き。ひ。つ。け ら。れ

ら 日。五。并 呈。機。僧。こ く。ろ。ま。さ。き。ろ。き 酒。白。酒。二。き。ハ。酒。の。あ。ち。こ。方。九。つ。ふ。す。ら む。ろ。ら。き。ま。ち。を。大。寺。會。お。き。金。子 雖。喫。こ。方。つ。め。ぬ。を く。へ。と。や。せ。に。や。れ は

ら 日。仁。後 式一領。伊波。波。字。好。妙。行。久。太。里 ら。ひ。つ。き。ご。ろ

も 頭著衣。方十五 ら。ひ。つ。け。う。ち。お。う。ら。は。は。九。あ。さ。き。ぬ。ま。あ。さ。き。ひ。つ。け ら。れ

ら 日。五。并 呈。機。僧。こ く。ろ。ま。さ。き。ろ。き 酒。白。酒。二。き。ハ。酒。の。あ。ち。こ。方。九。つ。ふ。す。ら む。ろ。ら。き。ま。ち。を。大。寺。會。お。き。金。子 雖。喫。こ。方。つ。め。ぬ。を く。へ。と。や。せ。に。や。れ は

ら 日。仁。後 式一領。伊波。波。字。好。妙。行。久。太。里 ら。ひ。つ。き。ご。ろ

も 頭著衣。方十五 ら。ひ。つ。け。う。ち。お。う。ら。は。は。九。あ。さ。き。ぬ。ま。あ。さ。き。ひ。つ。け ら。れ

ら 日。五。并 呈。機。僧。こ く。ろ。ま。さ。き。ろ。き 酒。白。酒。二。き。ハ。酒。の。あ。ち。こ。方。九。つ。ふ。す。ら む。ろ。ら。き。ま。ち。を。大。寺。會。お。き。金。子 雖。喫。こ。方。つ。め。ぬ。を く。へ。と。や。せ。に。や。れ は

ら 日。仁。後 式一領。伊波。波。字。好。妙。行。久。太。里 ら。ひ。つ。き。ご。ろ

も 頭著衣。方十五 ら。ひ。つ。け。う。ち。お。う。ら。は。は。九。あ。さ。き。ぬ。ま。あ。さ。き。ひ。つ。け ら。れ

ら 日。五。并 呈。機。僧。こ く。ろ。ま。さ。き。ろ。き 酒。白。酒。二。き。ハ。酒。の。あ。ち。こ。方。九。つ。ふ。す。ら む。ろ。ら。き。ま。ち。を。大。寺。會。お。き。金。子 雖。喫。こ。方。つ。め。ぬ。を く。へ。と。や。せ。に。や。れ は

一とよ中。万きとちうらなうらうらひまらん  
くけちつつけのなうらうらうらうら  
小角あゆ。和十角久大り  
布に。日天年 十四年 詔四方

曰大角南はれん  
履之。万九うらうら  
抗之。古下  
川のあみつせにいらいをうら

ちりつせよまうらひをうち。日。豊林 番遇正茂區  
頭植之。日。神代 孫植飯  
日。神代 孫植飯

ついでちりつ  
ちりつせよま  
ちりつせよま  
ちりつせよま

い 豊うらら 劔之。日。推古 たちなうらうれの  
まはらひ。日。推古 たちなうらうれの

○ 討

け 異之。万五あうらうらうらうらうらうら  
毎之。万五あうらうらうらうらうら

い。ちりつせよまうらひをうち。日。豊林 番遇正茂區  
助之。古下 孫植飯 孫植飯

ちりつせよま  
け 消之。万十 孫植飯 のめらうらうらうら  
くを返してけ

け 月七 孫植飯 のけやまき命。まねたけし  
れ。日。神代 孫植飯

け 月七 孫植飯 又けうらうらうらうらうら  
け。日。神代 孫植飯

け 月七 孫植飯 又けうらうらうらうら  
け。日。神代 孫植飯

け 月七 孫植飯 又けうらうらうらうら  
け。日。神代 孫植飯

け 月七 孫植飯 又けうらうらうらうら  
け。日。神代 孫植飯

け 月七 孫植飯 又けうらうらうらうら  
け。日。神代 孫植飯

け 月七 孫植飯 又けうらうらうらうら  
け。日。神代 孫植飯

け 月七 孫植飯 又けうらうらうらうら  
け。日。神代 孫植飯



あまのうたにひびくかたのうた

こご 掃きこきよむ 大舟よる 寝ころび

こごのうたにひびくかたのうたにちりて 掃きこきよむ 大舟よる 寝ころび

こごのうたにひびくかたのうたにちりて 掃きこきよむ 大舟よる 寝ころび

こごのうたにひびくかたのうたにちりて 掃きこきよむ 大舟よる 寝ころび

こごのうたにひびくかたのうたにちりて 掃きこきよむ 大舟よる 寝ころび

こごのうたにひびくかたのうたにちりて 掃きこきよむ 大舟よる 寝ころび

こごのうたにひびくかたのうたにちりて 掃きこきよむ 大舟よる 寝ころび

こころねうたむすね

こころよりのうた

情のうたにひびくかたのうた

こころねうたむすね 情のうたにひびくかたのうた

こころねうたむすね 情のうたにひびくかたのうた

こころねうたむすね 情のうたにひびくかたのうた

こころねうたむすね 情のうたにひびくかたのうた

こころねうたむすね 情のうたにひびくかたのうた

こころねうたむすね 情のうたにひびくかたのうた

情のうたにひびくかたのうた

こころひ

情りし。五九あしたまの。のきをなう。

おろろの。おろろひきり。おろろれや。

へか。おろろ。

い。おろろ。

情無着命。五九

おろろつけぎ。おの。おろろつけ。おの。おろろつけ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。

おろろい。おろろ。







乃こころふやむ 格休へ。方二むすの  
こころふやむ 了地し。方土ちとちある。神のいりきと  
こえぬへーとにちちのをうけか

へーちちちのふゆへいさじに 肥産し。方八つたちちううたままに  
まうせにぬけつちぬうまうこ

こえぬへー 二十物まきとちひちつたにぬくおまら  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こえぬへー 此一きこ  
こえぬへー 此一きこ

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

和歌集 和歌集 和歌集 和歌集 和歌集 和歌集 和歌集 和歌集 和歌集 和歌集

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰

こぼろのまづるをよめ 腰細之方輕娘子。まづるハ腰厚きと申す。女御細腰











さーてこ  
く舟入

さきさき  
凡のさきさき

けささき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき

またさき  
またさき







にけりとのそとこかにり **さくぢ** 雀の鶴鶴。古下大雀天皇。日大鶴鶴天皇。日天皇を日  
夜よりりつれをそのむ。 **さくぢ** 本若入千原飯の且冬田天皇を皇大臣内宿林語之曰天皇

對言多福の傷南唯日臣言多福射鶴鶴入千原そ西皇馬 中略 以のえ其つるを心各お見勿  
み子の後多福之契入。和鶴鶴 依々本。日仁後たやふさハわめいのけりといひかけせいつきり  
うへへきききくらしさぬ **さくぢ** 牡鹿。方十ささやりのつどやのあしちくこむの  
と俗ころさくぢいあさ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

乎之 **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
ハヤるにりもにぬ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

加 **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
ハヤるにりもにぬ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

刺車 **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
被二條 **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

いれとちりふはしきまや。さくぢのいせまわりの帯。と **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
さくぢとより六柱のそこの約してこのさくぢなり **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

方おむ川よさらけてつりつりさくぢ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
ちくちくさくぢのくたかあき **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

たての庵よりのまてくさくぢつぎまたつら **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
いけも。仙覚さくぢつぎ大君もてまつるゆほ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

さくぢのな **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
さくぢのな **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

酒おを人 **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
別心神祝祝之 **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ  
さくぢのへに **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ **さくぢ** 狛鹿。方三人をにんむ

山崎もよりてつづる神のよむ也

和儀 依天 網め異形 後後 廣也

さゆりともあ

さい

○日米代 韓 鋤之 叙

○日米代 韓 鋤之 叙

○日米代 韓 鋤之 叙

○日米代 韓 鋤之 叙

○日米代 韓 鋤之 叙

さい。と刀 劔のこし

さし

室。古下 たきへる

さし

さし

さし

さし

や君をとろさやの家をへたりて

朝傳 劔長 操其室 注室 溜精

ちさや日ぬきやていざ山。六

さやのともちくつ

雙六乃

依心

○日景外

さし

さし

さし

丹塗

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

さいぬり

